

平成 30 年度

事 業 報 告 書

[平成 30 年 7 月 1 日から令和元年 6 月 30 日まで]

一般財団法人 神 道 文 化 会

## 平成 30 年度事業報告書

### I、実施事業(継続事業 1 定款第4条 1 号から第 5 号)

#### 1、神道の思想・文化に関する研究及び情報提供

##### (1) 学術研究書「神道文化叢書」の企画・編集

神道の思想や文化に関する高度な学術研究について公表の機会を提供するため、「神道文化叢書」を刊行している。本年度は第 44 輯『伊勢神宮と仏教 習合と隔離の八百年史』多田實道著を平成 31 年 4 月 30 日に刊行。(630 部・関係者、会員等に配布)

##### (2) 機関誌「神道文化」の発行

神道文化の普及、神道精神の昂揚を目的として、機関誌を発行している。随筆、対談(座談会学術小論文等を掲載。本年度は、座談会の開催はなく、設立 70 周年事業「明治維新 150 年記念懸賞論文」特選入賞者 2 名の論文を掲載。令和元年 6 月 30 日発行。

(1000 部・関係者、会員等に配布)

#### 2、講演

毎年 1 回「神道文化」をテーマにした公開講演会や大学教授らによるミニシンポジウムを開催している。

対象：一般公衆(ホームページ、ポスター掲示、チラシ配布、ダイレクトメール等により参加者を募集)

《講演会の開催》

- ・日 時 令和元年 6 月 22 日(土) 午後 1 時より午後 3 時 40 分まで
- ・場 所 國學院大學渋谷キャンパス (AMC 棟 常磐松ホール)
- ・テーマ 「皇位継承儀礼を考える」
- ・講 演 I 「神道史から見た皇位と儀礼」  
武田秀章氏(國學院大學教授)
- ・講 演 II 「讓位儀礼について」  
佐野真人氏(皇學館大学研究開発推進センター助教)
- ・トークセッション 武田秀章氏、佐野真人氏  
藤本頼生氏(國學院大學准教授/司会・進行)
- ・参加者人数 約 110 名

以上

#### 3、神道文化功労者表彰

毎年、当会の「神道文化表彰規程」に基づき、神道文化の昂揚、普及、研究に功績のあった個人もしくは団体を選定し、表彰を行っている。

表彰対象は以下の通りである。

- 1 多年神道文化高揚に精励し、その功績拔群なる個人もしくは団体
- 2 神道文化に関する学術研究において、その功績の顕著なるもの
- 3 神道ならびに神社に関する広報・教化活動において、その功績顕著なるもの
- 4 神道関係団体において、その活動が優秀なるもの
- 5 神道文化高揚のため功労あるもの

支給総額：48 万円。表彰選考委員会（平成 31 年 4 月 18 日開催）において決定。

（令和元年 5 月 24 日表彰式にて表彰状および記念品料を支給）

《本年度被表彰者名》

①岡部一稔 殿

（京都府）

氏は京都府福知山に生まれ、平成 8 年まで京都市立の小学校に勤務。退職後は皇學館大学専攻科にて神職資格を取得し、福知山御霊神社宮司を経て、平成 20 年より福知山城朝暉神社宮司を務めている。その間三和町及び福知山市において文化財保護審議委員、福知山市郷土資料館長などを歴任し、出身地の文化振興、歴史研究等に大きく寄与。長年にわたり地方史研究を進め、『福知山市史』『三和町史』の分担執筆を「外宮御師の系譜」「丹波における金毘羅信仰」等神社、神道にかかる執筆も手掛けている。そのような文筆活動の中、この度『京都廣河原民俗誌』を自費出版。五章からなる本書は、今日少子高齢化が進む地域社会において、文化・伝統・信仰を後世に引き継ぐ上での神職の取組みのひとつの形として評価できる。

記念品料 8 万円支給。

②岐阜県神社庁養老上石津支部 殿 （岐阜県）

同支部では、養老町と大垣市上石津町、海津市南濃町支部内 160 の神社に保管されている文化財である棟札・絵馬・古文書等を調査し、報告書を纏めた。A 4 判 302 ページのものである。第一部養老町 神社の棟札・絵馬・古文書 第二部大垣市 上石津町神社の棟札・絵馬・古文書 附 古文書明細目録 解説 養老郡の神社文化財 が収録されている。調査に当たっての目的と使命感は、各神社に伝わる大切な文化財の散逸を懸念しその価値を見出し、適切に保存・管理し、後世に残すことであった。調査は養老町出身で東京大学史料編纂所西脇康氏の指導・尽力のもと平成 24 年 8 月から 6 年間かけて神職と氏子が立ち会い実施された。本書は、支部管内神社の文化財の悉皆調査により各神社の歴史を知る貴重な基本となる資料集であり、豊富な内容は出色で価値が高い。

記念品料 8 万円支給。

③岸川雅範殿

（東京都）

氏は、神田明神にて広報・資料館担当として研究及び教化活動に励む傍ら、単著 1 冊 監修 2 冊、編著複数冊を手掛けている。

こうした研究活動を通して、江戸東京の神社祭礼・神事、江戸東京の神社文化をあきらかにし、江戸東京において、歴史を通じ今に至るまでいかに神社が人々の信仰拠り所として重要であるかを広める活動を続けている。また、江戸東京博物館等の公共施設において神社文化・祭礼文化の講演を行うなど、一般の人々に対しての教化活動も積極的に実施している。

記念品料 8 万円支給。

#### ④武田 淳殿

(埼玉県)

氏は、平成 21 年より「神主さんと神社へ行こう！」という旅行を通じた教化活動を始め、多くの人々を県内神社はもとより、伊勢の神宮などに同行し、案内している。平成 24 年より埼玉県神社庁に勤務の傍ら、休日を利用しクラブツーリズム株式会社で講師・ツアーナビゲーターとして「神主さんと行く神社めぐり」を年に 20 回程度実施しており、式内社を中心として全国の神社を案内している。神社参拝の基本などをわかりやすく解説し、参加者の方々から定評がある。旅行を通じた教化活動は、神道や神社への理解を促し、教化活動としても評価される。

記念品料 8 万円支給。

#### ⑤荒川美津三殿

(神奈川県)

氏は伝統技術を後世に伝える「民具製作技術保存会」に所属し、藁細工製作の技術指導者として後進の指導に当たっている。長きに亘って日本の生活文化に根差した日用品として、手作りの温かみ持つ民具の伝統継承と技術保存のため尽力している。また、民具のみならず正月飾りを始め、しめ縄や祭具といった神社や家庭祭祀に関わるものまで幅広く及んでいる。一昨年前からは、当県横浜市鎮座星川神社に、故郷宮城県にて戦前よく見られた鳥居型のしめ飾りを復活させた。神社祭祀と密接にかかわる藁細工の技術継承を通じて、祖先から受け継いできた伝統文化の復興と保持、時代への継承に努めている活動は評価される。

記念品料 8 万円支給。

#### ⑥松葉英星殿

(熊本県)

熊本県人吉市にある熊本県立球磨工業高校は全国で唯一、伝統建築を学習し技術を習得する伝統建築科と高校卒業後さらに専門的に学べる専攻科をもつ宮大工を養成する高校として注目される。公立高校という制限の中で、積極的に神社建築の現場に臨んで、学んだことを実際に生かし寺社の修理建築を行い地域社会に貢献している。松葉氏は、教諭として、その地域社会とのつながりを重視することを中心に指導してきた。東日本大震災で罹災した福島県南相馬市の山田神社、河原天照皇大神宮の仮社殿のために預託された社殿の修復を手掛けたことは特筆される。平成 24 年 2 月、翌年 8 月の二度にわたり生徒を伴い建設作業に当たった。山田神社はこれを機に崇敬者、被災農民とともに復興へ前進することを決意し、日本財団の協力等もえて、新社殿が完成した。

平成 28 年の熊本地震にあつては、実際の被災状況を見て神社建築の実際と修復の手立てを学生に指導するなど、倒壊社殿の片づけや修復または新築などを手掛けている。平成 30 年に定年退職してのちも、宮大工を志す若者の支えとなっている

記念品料 8 万円支給。

#### 4、助成金支給事業

##### (ア)神道芸能普及費の支給

当会の「神道芸能普及費支給規程」に基づき、神道芸能の普及・昂揚のため活動している個人及び団体に対して、援助金を支給し、その活動を支援している。支援対象は以下の通りである。

- 1 歴史的民俗的に神道及び神社とかかわりある音楽ならびに舞踊(その他これに類するものを含む・以下同じ)
- 2 神道行事に関わる音楽ならびに舞踊
- 3 神社祭祀に関わる音楽ならびに舞踊
- 4 神道文化昂揚普及に関わる音楽ならびに舞踊

支給額：表彰選考委員会(平成 31 年 4 月 18 日開催)において決定。40 万円支給。

(令和元年 5 月 24 日伝達式にて目録および助成金を支給)

《本年度支給対象者》

##### ①橘雅楽会殿

(愛媛県)

同会は、平成 15 年 9 月、愛媛県女子神職会設立十周年の女子神職による奏楽奉納に対する雅楽指導に端を発し活動を開始した。その後、井出神社の境内社である橘天満宮の夏祭りの祭典楽奉仕並びに境内での演奏会活動を続け演奏技術向上のため研鑽を積んでいる。松山市並びにその近郊市町村で老人ホームへの慰問や各種記念行事での演奏会の開催などを通して、伝統文化の護持普及と社会福祉に貢献することを基本理念に活動している。

普及費 10 万円支給。

##### ②真岡市夏祭り町会囃子連殿

(栃木県)

真岡市の夏祭りは、真岡市の中心市街地、真岡場内三ヶ町の各氏神神社である八坂神社祭礼に由来し、大前神社の摂社である 荒神社の荒神祭の神幸祭と併せて、昭和 28 年にそれまで別々の町会で斎行されていたものを統一して開催したことに始まる。

現在は七町会で構成され、日本の夏祭り百選にも選ばれている。それぞれの町会には、山車屋台(古いものでは嘉永元年建造の屋台もある)があり、必ずお囃子が乗っている。それまで交流のなかった各お囃子会の情報並びに技術の交流を通し、先祖から受け継いできた日本の伝統文化の継承と後継者の育成に努めている。

普及費 10 万円支給。

③土師流郷神楽萩原社中殿

(神奈川県)

横浜市鶴見区に伝わる神代神楽の社中は、古文書にも記載され、寛永十五年(1638)から存在し、約四百年の歴史がある。この社中を伝承しているのが萩原家で、現在は鶴見の矢向日枝神社萩原宮司家が引き継ぎ土師流郷神楽と名乗っている。横浜市に伝わる里神楽の伝承には三つの系統があり、神代舞太夫系、神職系、舞太夫・氏子団体系であったが、明治以降神職系が残るのみとなった。そのような中、萩原社中では、後継者の育成に主眼を置き、稽古を重ね技能の向上と伝承活動に尽力してきた。現在においても年二十回以上の神楽を奉納し、四百年の永きにわたり活動を続けていることは、多大な功績といえる。

普及費 10 万円支給。

④山口県神社雅楽会殿

(山口県)

昭和 63 年 3 月それまで県内各地において雅楽の習礼を重ねていた各雅楽会の神職が中心となり、また一般の雅楽愛好家をふくめ県雅楽会としての活動をすべく本会を設立。初代会長には鈴木健一郎防府天満宮宮司に就任を願い、研修会講師を中央より招聘し、研修会を重ね自己研鑽に励む。また、春秋の県内神社祭礼の奏楽を奉仕するなど活動を行っている。また、一般を対象とした「雅楽公演会」を十年毎に開催し、一昨年、結成三十年を迎えるにあたり、雅楽師東儀季一郎氏により「還元・真寿楽 舞楽・御稜威」を記念曲として創作を受け、一般公演会を下関・長門・防府の三会場にて成功裡に開催するなど活動している。

普及費 10 万円支給。

(イ) その他の支給事業

文部科学省平成 28 年度「私立大学研究ブランディング事業」に採択された國學院大学の事業「古事記学」の一環として展開される「古事記アートコンテスト」の趣旨に賛同し、本事業に共催として参画。第 2 回の表彰受賞者への賞金として助成金を支給。

助成金支給額 : 23 万円  
以上

5、周年事業

《「明治維新 150 年記念近現代神道史」懸賞論文を募集》

『明治維新神道百年史』出版より 50 年が経過した現在、社会状況は大きく様変わりし当然ながら近代神道史にかかる研究も進展した。当該分野を専門とする研究者も増えることで研究分野、領域は広がりを見せている。これらを踏まえ、本会では設立 70 周年を記

念し、上記書籍の復刻出版とともに、今後の神社神道のあり方、神社、神職の進むべき方向を考える上で、我が国の喫緊の課題でもある過疎化社会、少子高齢化社会にあつて、神社界あるいは神社神道としての考え方を求められる問題のヒントを探すべく、特に近現代にかかる神道史をテーマに設定し、懸賞論文を募集した。

平成 30 年 5 月 30 日にて締め切り、応募が 12 点寄せられた。

#### 《審査委員会の開催》

- 1、日 時 平成 30 年 9 月 25 日（火）午後 4 時
- 2、場 所 國學院大學若木タワー 神道文化学部長室
- 3、出席者 審査委員（敬称略・順不同）
  - 松山文彦 東京大神宮宮司、本会専務理事（審査委員長）
  - 西村 明 東京大学大学院人文社会系研究科准教授
  - 武田秀章 國學院大學教授・神道文化学部長
  - 阪本是丸 國學院大學教授・本会理事
  - 櫻井治男 皇學館大学特別教授・本会理事
  - 藤本頼生 國學院大學准教授（本会設立七十周年事業委員）
  - 事務局 岡市仁志 神社本庁主事・本会事務局長
  - 阪本和子 本会書記
  - 欠席者 谷川 穰 京都大学大学院文学研究科准教授
  - 佐野和史 瀬戸神社宮司・本会常務理事

#### 4、審 査

##### (1)審査内容

- ・審査対象件数 6 件

新田恵三氏  
木村悠之介氏  
大番彩香氏  
半田竜介氏  
河村忠伸氏  
中村 聡氏

6 名

- ・表彰及び賞金の決定

- ◎特選（論文を機関誌『神道文化』31 号に掲載 賞金 30 万円） 1 名
- ◎入選（論文を機関誌『神道文化』31 号に掲載 賞金 5 万円） 5 名
- ◎佳作（記念品として『明治維新神道百年史』全五巻 1 セットを贈呈）若干名

- ・表彰式について
- ・その他

(2)審査資料

- ・判定票（無記入）
- ・評価票一覧（谷川、西村、事務局）
- ・記念論文執筆者一覧
- ・判定票（谷川氏記入・6枚）（西村氏記入・6枚）

以上

(5)審査結果

【特選】

- ①木村悠之介（東京大学大学院人文社会系研究科修士課程1年）22歳
- ・「明治後期における神道改革の潮流とその行方 ―教派神道と『日本主義』から「国家神道」へ」
- ②中村 聡（星川杉山神社権禰宜）40歳
- ・「神道人川口常文の行実 ―結城神社修繕昇格運動と先人顕彰活動を中心に」

【入選】

- ①新田恵三（皇學館大学文学研究科神道学専攻博士課程前期課程2年）23歳
- ・「神道行法禊祓行の教学的背景について」
- ②大番彩香（國學院大學大学院文学研究科神道学・宗教学専攻博士課程後期2年）27歳
- ・「明治初期の神葬祭式をめぐる問題」
- ③半田竜介（國學院大學研究開発推進機構ポスドク研究員）30歳
- ・「自由民権運動と国学者・神職 ―丸山作楽『明治日報』を通じて―」
- ④河村忠伸（秋葉山本宮秋葉神社禰宜）37歳
- ・「近現代神道の教学的課題」

以上6名

《表彰式の開催》

- 1、日時 平成30年12月6日(木) 午後3時
- 2、場所 東京大神宮マツヤサロン
- 3、出席者 披表彰者6名及び松山文彦専務理事、浅山雅司理事、藤本頼生理事、  
神道文化会事務局3名

5、表彰状及び賞品の授与

- ・特選入賞者 各15万円を支給
  - ・入選入賞者 各5万円を支給
- 合計額50万円。

以上

《出版事業》

平成29度の復刻版『明治維新神道百年史』の出版に続き、御代替りを寿ぎ『昭和の御大典』（昭和53年刊）の保存版(オンデマンド・並製)100部の作成、5月に刊行。



令和元年9月に関係者に配布予定。

この出版をもって、設立七十周年記念事業は無事完了となった。

## II、その他の事業(出版等)

本会は、児童向け教化冊子「杜のシリーズ」8冊を神道青年全国協議会と共同で企画・発行しているが、平成24年度より、良書の普及を目指し、神道文化叢書第1輯の『神道百言』、同第6輯『皇室の御敬神』、同第7輯『続神道百言』を復刻、出版し好評を得ている。本年度は、増刷なし。

以上